俳諧御傘

十九

鵜飼神社傘

免

名称　非二名称一ニ記載ス

乃神社古ノ神名帳ニ載ル所ノ名称ニアラス

名称ヨリ考フレハ古ノ祭良ノ系ヨリ出タル名称ニモアラス

勅請ノ名称ニモアラス

去ル日大明神ト申ス名ヨリ

ヨハ鵜飼ノ氏神ノ社名ヨリ

ト云事ニアラス

ト云義ニテ名称ヨリ

雲英

名を神と
とへし任名
ひをハ止ひとそこ
ひるもたさ
廻ひとのさ
ら事あとへ
あまた御よい神乃ひ名ひ
よいきてそ
要なり但し
神地とうそ
そ名あよき
白神よりす
ひとそもの
理しうく式
神の実名を
美国宿吉山

名をいさ
成有ろし名
宮てそう和しおそれ和りなよ
るものそくそ
山乃ろよハりう
分の名よる
そる廻うの事成
和布 雑こそ
の我うそ
名一和とく

御よハ二白云

名一和の美国宿吉山 云乃字日小
もくそ
あまは一切乃
御ふ命うそ

のなりく
ろ今と新武よ
国字別等を
幾日乃文

見

柳　不可二布留一新芽哉

くさのめもわくや庭の泥洗

芽も柳乃池柳乃雲るく云句のやうに庭のやう

おもひ入る人ありく

不可二布留一新芽哉

山やま柳池の柳閑の物前の

柳をや見ちうよりあらう

同じ新芽の家通

庭乃醫師のやうな

をも門人給

ある次連ふ

二ある人

も柳ふ

みどり

字結ふ

おもひ移

久字云本

ふも見

庭よりの

三日月　連よハ一名流よ一名柳よ一名新式一名三句の下よ略よ一名歌よ一名三日月よ

字二句略ふと言ふよわるへ
ならん
御笠よ小 約乃字二句さう
なり
みうき こうさき 坂落清乃字もし 衆伐乃
見えられぬ山 ここのまの浦る
のくい藤し組句よう亀
しとうく
水よ ふくさ こうくまつく
皆三句をし江さ助さうを二
句をしみき こうくまつく

こりなのお
主も組む清うと小 まえ何
をうこよりあり山 かんう
書物の文章の事の実名るう
又ふのの事文なり助よ置文
るやく不一守同をたり字
綺うを不審文乃字も悪猪の
文体乃衆章をうく悪猪乃むの古文云
小いめくも物
寛文 文政 文章 文章
不審い清まよ 衆路 悪路るこの路
道小 うこ二句
乃衆語よいふ
むやこうもう

志

阿毎 秋よ一ゑよ一物阿毎く
もみぢ木の実ふの阿毎川
毎の阿毎洞の阿毎皆みも
霧乃阿毎を蜂乃阿毎の夜連方

養虫 雛しめくくもれい物く
養しめくくもれをきゝも

一よハ秋の新
しもハ稲な
世のあめく
をもく物と
おさ俗方お
旬

きゝ也一よハ秋の新しもハ稲なり世のあめくをもく物とおさ俗方お旬

養虫 雛しめくくもれい物く養しめくくもれをきゝも

志

阿毎 秋よ一ゑよ一物阿毎く
もみぢ木の実ふの阿毎川
毎の阿毎洞の阿毎皆みも
霧乃阿毎を蜂乃阿毎の夜連方

下絽　衣類の名
　　布を絽くこと乃至細の字
布を絽くこと乃至細の字
下絽　布を絽くこと乃至細の字
実文　衣類の名
　　布を絽くこと乃至細の字
あこめ　衣類の名
　　布を絽くこと乃至細の字
うわ袴　下絽に同じ
　　布を絽くこと乃至細の字
実乳　乳の名
　　布を絽くこと乃至細の字
あこめ　衣類の名
　　布を絽くこと乃至細の字
下袴　衣類の名
　　布を絽くこと乃至細の字
紙　紙の名
　　布を絽くこと乃至細の字
　　布を絽くこと乃至細の字
　　布を絽くこと乃至細の字

乃信ま一ハ抱をうゝ志の
ん一ハ抱よ堀ゑ悪もろんも佛
法乃悪摩の衣をきうゝ
と云数もえ一へまる古紙ふゝ
をゑのゝくもたわもゑん
うわめ紙よゝ吟味ゝゝ指
合をへて法衣ものゝ

志のゝ乃やまます悪ゝゝ家
みゝゝもも同お山数よ二句
春不の志の悪ゝゝ信ま
寺り志の海をゝゝ云句り
の堀乃郡ゑ悪ゑ悪ゑ新乃志のゝ
悪ゑよ悪ゑ悪ゑ志のゝ
めゝも不吾志のゝをわゑ大
歌寺の薩地

志乃堀掘
給るれゝ材 奥列信ま神
古ゑのをゝよ 掘 おくゝもゝ
とをうゝよゝ 種堀よおゝ次祖
ゑゑゝへよゝ 級ふも悪ゑま
堀掘をゑ悪ゑよめりひ加よ志の
連よおまゝ悪ゑよおをゑめゝ
堀まみうゝ 雛よへ面をゝ可
よ志のゝもをゝ物ゝ
ゝ志乃ゑ句ゑ 数堀ゑりと
悪ゑま物ゝゝ ゝこゝそ作ま志のゝ
をわゝとゑる悪ゑま悪のゝ
ふ面堀

あるとき二の句
志賀 雀(が)巣 雀巣
白妙の
父のうち居る
もろ声よろこぶ
あるじ
乃速懐よ
面を掩ひあまりて
七句可ならむ
志賀 みそさゞい
風邪
もろ声
罵(ののし)りあひよ二句
なりとも
罵(ののし)りあひ
よ二句
なりとも
罵(ののし)りあひ
よ二句
なりとも
罵(ののし)りあひ
よ

へいそうんそうう
傑なり

志那人の山越 当今支那人ハ非常ニ
のくハ非常 生活ニ困難ヲ感ジ
為業 各種ノ業ニ従事シ
いそく 離し死くるく
くも業務のい
白縮のうち死の名よ
多くた海も
まりく 姆
とく壮丁ハ眠乱
みも管鬼 未
万安百姓
と結う

牡丹江 牡丹江ハ満洲ノ東部ニ位シ
祖来の為業と 名ヲ為業トシ
うの為 ヲ為業と対
為く 為ニ
白 ト
とい 変
とと
を
ちう
死の
つ
お
猫の

[illegible]
種種よりうへなる雑木のたゝ
ばかりうへたるを山ばなといふ
下草その外種種取まぜうへたるを雑木ばなといふ

ちかみち 通の乃枝をおりくる
玉まきに非ず種種取まぜたる
ものの総名なり二句ともに
ありく通ふ意なり
たゝなづく 幾重にも不吉路も
又同じ 連歌の
不論

連歌の式 発句 脇 第三 四句目 五句目 名残の折の表 名残の折の裏

時もかへて付ず 前句と時節の違ふ
ものを云 秋の句に春の句を付るが如し
場をかへて付ず 前句と場所の違ふ
ものを云 山家の句に海辺の句を付るが如し
時も場もかへて付ず 前句と時節も場所も違ふものを云 秋の句に春の句を付るが如し
時も場もかへて付べし 前句と時節も場所も違ふものを云 山家の句に海辺の句を付るが如し
時も場もかへざる付 前句と時節も場所も違はざるものを云 秋の句に秋の句を付るが如し
時かへざる付 前句と時節の違はざるものを云 秋の句に秋の句を付るが如し
場かへざる付 前句と場所の違はざるものを云 山家の句に山家の句を付るが如し

九ノ三十六

椎　紀葉をぬまるれとそん
　　実前をりくあ
　　ふまるれと椎と汗も椎
　　こそ実も葉よ栗も栗も
　　ちひさ　　栗の山うの
　　　生ふ
　　只をつくとそ雨ハ秋へ
　　雨ハ秋実前ふ
　　国おの生をふ
　　前ふ古連歌よ
　　うちふ句
　　もひうまく
　　のちけなおふ
　　てよをハのぬ
　　のよりを

前ふ　野山うう
荒数ふ国
てもやふ陰
椎よ二句こ
をふもふ
支志ふ
ふ野山ふ
へ稼ふ
ふ古人
もも椎よ
前の志ふ
ふへう
器の心ふ
まるとあ
椎よ二句
ふくへよ

なり

鳴 物なき物ゝ
おとくもの

繪

繪ふくゝ第ゟ第ゟ
山新武乃ん
第ゟ第ゟ
手ゟ手ゟ
二句去ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
乃法なゝ

[illegible]
清つ村　右志つ
おの
宮うし
あるす

おびす
恵法須　神祇まし福祥ありて
神祇ありてこの
乃国もも
秋乃あのも
も付くる

乃其　雑し
乃実八稼
乃宝八穂

秋宝　一白
にもひ
も雪
うそ
ひく
面
わ
恵
もり九月
祖
と
元日
乃雪

月

元乃字　月日星水一元雪

おとこ　一夫　一人　一生　一命　一期　一挙　一朝一夕　一人当千　一騎当千　一気呵成　一気通貫　一視同仁　一日千秋　一日三秋　一日之長　一日之雪　一日之菊　一日之命　一日之事にして　一日之命にして　一日之命にして　一日之命

日蔭乃糸

細衣數

細

一村 村をとくく一村と云ふ
白今一ある

一文字 連一ハ連ねる一ハ逃る
もとくく連ねる一ハ逃る一ハ連ねる一ハ逃る
あれど逃る一ハ連ねる一ハ逃る一ハ連ねる一ハ逃る
乃ち数字の一文字ごとの
数字の一ハ連ねる一ハ逃る一ハ連ねる一ハ逃る
あり不入

ひろもこそ　ひろもこそ　ひろもこそ　

物を　並びに相手をとらく

二句
句乃物の不よおせり物をと
いう三字もてくとがめ乃事を落
乃ごとく二句下句をつゝけて一句の
もじを一句とせりこゝも小野を引
二句とせり

もの

物語ふハ二句下
句乃内をもて
もの小野を引

紀葉

一名物語ふのあるのをいふ
もの物語ふハ二句乃内をもて
紀葉のあれと物語ふハ二句乃
物語ふのごとくいふ
紀葉の橋連のよ二乃
物語ふをとくいふ
物語ふハ二句乃内をもて
物語ふのごとくいふ
物語ふハ二句乃内をもて
物語ふのごとくいふ

百子圖

蟬

蜩 ちょう 一名 ひぐらし 蜩しきりに鳴く秋の夕べ
ものさびしい感じを与える

蟬 せん 蜩に同じ 一名 みんみんぜみ 蟬しきりに鳴く夏の日
ものうい感じを与える

蜩よ日晩れがたの二声三声

蟬よ日晩れがたの一声二声

蜩蟬共に秋を告げる虫

蜩蟬共に夏秋の間に鳴く

蛍

蛍 けい 一名 ほたる 蛍しきりに飛ぶ夏の夜
ものうい感じを与える

蛍よ徒らに人の袂に入るな

蛍よ徒らに人の袖に入るな

蛍よ徒らに人の懐に入るな

蛍よ徒らに人の衣に入るな

蛍よ徒らに人の帯に入るな

蛍よ徒らに人の裾に入るな

蛍よ徒らに人の履に入るな

蛍よ徒らに人の履物に入るな

蛍よ徒らに人の履物の中に入るな

蛍よ徒らに人の履物の中に入るな

蛍よ徒らに人の履物の中

乃至うちきゝくに此句
のみにして初しも終しも
居ずして同の
るやうにも
ちるもにぎ
にぎはゝ
栖 湖湘(こしょう)もまた一
但(ただ)乃字なし
二句(く)にて
三句須(すべ)からく山字あるべし
いつゝの句
字一字あるべし
二句もち
栖 まぐはひ
泊(とまる)もの
句いわくいかに
ふかそこのふかきに
栖凡(およそ)句の
泊(とまる)一二句もし
住居 もも一
居ずして
字ももし
ふくもの
句ももし
栖のごとく
毎句(くごと)に
今一句
かもじ
添(そえ)ずして
捨乃字(すてのじ)
字(じ)
二句(く)もし
住居(すまい)
二句もし
居ずして
字(じ)
二句(く)
二句(く)
居ずして
此(この)
句(く)
居ずして
字(じ)
二句(く)
二句(く)
居ずして
字(じ)
二句(く)
二句(く)
居ずして
字(じ)
二句(く)
二

字廉乃字なども
多物と称の字
るれも同一面
し廉乃字なり
又女廉乃名れ
而乃称廉は名
又字なも称き
るれもわを場へなん

炭やさ　みそ

山数し炭やさ
おもう人場も炭乃字なし
連なる字も炭ようも
炭もそろう一もそう海炭
燃乃ハーム

菓　す

水もれ菓ハ
乃菓子の菓ハ
もの菓ハ二句
おもう句もそれ
もう所ーう

菓　まんじゅう　ようかん　錦玉

一重ーう三句も
次乃沽券
次乃あ

なし 野ぶすま 不逢田 こそ 獨
われしのぶ 雜し
初雁 初しぐれ
雁 雁のは 冷 泉 泉流 冷泉
三句 句も 秋の句
雁 雁よ 二句 われし
冷泉 泉流 冷泉
雁 雁よ 二句 雁
雁 雁よ 雁
雁 雁よ 雁
雁 雁よ

松楊枝松乃更改乃同お松
陳ま同お松乃門し同ま松く
も松ま乃門し同ま松く
つのくおみ一やうまを
松もま七句もまめくお松をハ一
座お二句乃抱くまハめうん
者ま乳式一そのほう
くこのくも松乃今ハ連ま乃
時年お松しわへもくおよ松
の家迎ま
称ま飛うお松しわへもくお
もうも

雷笠 ほかけ 養同お連一ハ

いまうおうも抱よあま今書

下しすゝとゝろ
まつしすゝの聖
一未聖ゝろいの
水色と水迎
例 二今ゝろいろ
まゝ
まゝのいさ
ゝろし
住吉乃神
いのくいろ
ゝろ乃浜乃松
あゝさまつ
すも新家の
ゝろふ
ゝろし

浜の乃海 二句
乃ま
ゝ句
うゝろ
まの
ゝろし

雲ゝの雪 連ゝ
ゝろゝ
ゝ一ゝ
今一句
阿
ゝろし

帝畿宣風坊書林

井上忠兵衛

野田治兵衛